

令和3年度（大磯高校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての職責を自覚し、法令遵守意識の徹底を図ることで、公務外非行を未然に防止する。	事故・不祥事防止研修を毎月実施し、法令遵守意識の向上に努めた。また、人権保護に係る職員の理解を深めるため、外部講師を招いてネットモラル等を題材として研修を実施し、効果を上げることができた。
職場のハラスメントの防止	人権に配慮し、尊重した対応を身につける。	ストレスを抱える職員と管理職との面談を密にし、情報の共有に努め、職員間の融和を図った結果、職員間のコミュニケーションの向上に一定の成果を上げることができた。
わいせつ・セクハラ行為及び体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、冷静に真摯な態度で指導にあたる。	配慮を必要とする複数の生徒について、スクールカウンセラーや教育相談コーディネーター、担任等との連絡と情報共有を迅速にかつ、綿密に行い、課題の解決を図ることができた。
成績処理や進路関係業務における個人情報に係る事故防止	成績処理等に係わる事故防止のための体制作りを行う。 進路関係の正確かつ適正な事務処理を徹底する。	生徒の出欠状況の管理や、その整理の方法について年度中に大きな変更点があったが、関連するグループを中心に協力して適切な対応をすることができた。また、推薦入試に関する業務については、公正で適切な事務処理を行うことができた。
入学者選抜に係る事故防止	県民に信頼される入学者選抜業務の体制の確立。	入学者選抜業務の遂行にあたっては、丁寧なデータの確認作業を心がけ、ミスのない業務を実施することができた。
危機管理時を含む業務執行体制の確保	円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。	危機管理マニュアルの整備を行い、緊急時における参集体制を職員間で確認することができた。不審者の侵入に対する対応などの不測の事態に関するマニュアルが未整備であり、策定とともに発生が想定される事態に即した研修の実施が必要である。
財務事務等の適正執行	適正な私費の徴収・執行を行う。	遠足や修学旅行のキャンセルや変更等に伴う会計処理も適切に行うことができたほか、各会計ともに帳票の適切な作成と、適切な出入金処理を行うことができた。

○ 令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

コロナ禍が継続し、計画通りに教育活動が実施できない期間が長く続いているが、そうしたイレギュラーな状況下において起こりうる事故を想定しなければならないと考えている。例えば、指揮系統に関与する職員がコロナウイルス感染症で不在であるなどの場合、これをどのようにカバーし、通常の業務を継続していくのかも考えざるを得ない状況がある。

また、再任用職員が3分の1近くを占める職員構成の下、職員間のコミュニケーションを促し、風通しの良い職場づくりを進めることが不祥事防止にも役立つものと考えており、その具体的な方策について検討して行きたい。